

# Cat6000 MSFC 上での単一ルータ モードの冗長性と BGP の設定

## 内容

[概要](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景理論](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

## 概要

この文書は、Catalyst 6000 Multilayer Switch Feature Card ( MSFC ) 上での単一ルータ モード冗長性と Border Gateway Protocol ( BGP; ボーダーゲートウェイ プロトコル ) の設定例を提供します。

優れたネットワーク設計の実践とは、レイヤ 2 とレイヤ 3 に冗長性を提供することです。それぞれが 2 つのスーパーバイザ エンジンと 2 枚の MSFC を備えた 2 台の Catalyst 6000 スイッチをネットワークに接続することによって、望ましい冗長性が得られます。2 つのスーパーバイザ エンジン ( 1 つはアクティブ状態、1 つはスタンバイ状態 ) によって、レイヤ 2 の冗長性が提供され、各シャーシに装着された 2 枚の MSFC によってレイヤ 3 の冗長性が提供されます。さらに、2 つの Catalyst 6000 シャーシは BGP を使って 2 社の異なる ISP に対してマルチホーム化することが可能です。これにより、1 社の ISP で障害が発生した場合に、追加の冗長性が提供されます。

Catalyst 6000 で冗長性を設定するには、次のような複数の方法があります。

- デュアル MSFC 冗長性 ( 高可用性 )
- Single Router Mode ( SRM; 単一ルータ モード ) 冗長性
- 手動モードの冗長性

この文書では、2 つのスーパーバイザと 2 枚の MSFC を搭載し、CatOS システム ソフトウェアが動作する Catalyst 6000 の SRM 冗長性の設定例について記述します。2 つの Catalyst 6000 シャーシが接続されたマルチホーム BGP ネットワークの SRM 冗長性は、上記の 3 つの考えられる選択肢の中でも、最も設定が簡単です。

## はじめに

### 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

### 前提条件

この文書の読者は、BGP の設定と、Catalyst 6000 シリーズ スイッチのスーパーバイザと MSFC 冗長性の設定について精通している必要があります。これらのトピックの詳細については、関連情報のリンクを参照し[てください](#)